

# 佐野幹法

佐野恵樹園株式会社 代表取締役社長

心の垣根を **一足飛び** にする  
兄貴肌の **外構工事会社** の経営者

## 「佐野恵樹園株式会社」

昭和51年から造園工事業、平成20年からは外構工事も手掛ける。平成29年以降エクステリアショップ「グレンタ」を筑後と佐賀に立ち上げ、自然味あふれる外構・庭造りを行っている。モットーは「あたりまえの事をあたりまえにするのがあたりまえ」。

荒木本社 ☎ 0942-26-4861

住所 / 久留米市荒木町今174

HP



■ グレンタ 筑後支店  
☎ 0942-27-8129  
住所 / 筑後市徳久188-1



■ グレンタ 佐賀支店  
☎ 0952-97-5797  
住所 / 佐賀市大財2丁目1-15  
グランビアマンション大財102号



### Three Questions 匠人 たくみびと 3に聞く のこと

#### 1 ご自身が好きな木は？

紅葉する木が好きですね。植えると葉の変化で季節を感じられるから。お客さんへも、自然とそういう木をおすすめしています。

#### 2 お休みの日は何をしますか？

基本的には家族サービスをすることが多いですが、夕方まで睡眠をとって頭をリフレッシュさせることもあります。

#### 3 趣味はありますか？

コロナ渦でハマったのが、釣り。やるからには、と3回目に釣りに行くときにはもう仲間と割り勘で船を買ってましたよ。



### 周りの度肝を抜く度胸

外構工事会社の社長と聞いて事務所に伺ったが、そこは設計事務所のような場所で、社長である幹法さんもスマートな腕利きの設計士のような印象だ。目に力があって、不思議と貫禄がある。「佐野恵樹園」の創業は昭和51年との情報があつて、つまり二代目社長なのかと思つて聞くと、全く想像とは違

う回答があつた。

幹法さんの父は同じ会社名で造園業を営んできた。幹法さんが24歳の頃、造園職人仲間のところへ修行に行つて来い、という父の一言で、幹法さんは弟子入りをしたそうだ。そして、6年修行した後の平成21年9月1日に突然ダンプロックを1台買つてきて、「俺、明日から自分で会社すつたい」と宣言。奥さんをはじめ周りがあっけに取られる中、幹法さんは全く揺らぐことなく肅々と前進し続け、5年後には法人化した。

「10代ででっち奉公はじめた時から、もうこの日に独立しようと思つてたんですよね。なんでかわからんですけど、誰にも相談せずにその日って決めとつたんです」。

一般的な起業プロセスとは全く違うやり方ながら、幹法さんの思いの中ではしっかりと確信があつたそうだ。「とにかく、自分の庭を作りたくて始めていますから。学生ん時より社会に出てからのものすごく勉強して、俺結構イケるんじゃないか?と思つて勝手にワクワクして、

はみんなも楽しいもんね。会社として、これから先の楽しみも作っていきたくてですね」。

幹法さんにとっては「ワクワク」が大きな原動力になっているようだ。自身もワクワクする方向へ進んできたし、従業員たちもワクワクがある仕事を続けたいと考えている。

「自分の仕事はこれだ、と明確に分かつたと同時に、仕事って苦労に変わるんです。新しい仕事ができたらワクワクするじゃないですか。こういうことを普段口にはしないけど、違うことを展開しないとワクワクは持続できない。だから会社は変わり続けていかないと」。

会社の新しい試みとして、外構で植えるための植木の生産をする部門を立ち上げようと、今プランを練っているという。植木の生産と販売をして、一般の人も植木を買いやすく、外構にもちょうどいい植木が使えるように。幹法さんにとっては造園の職人としての原点復帰ともいえる。

「うちで外構を作る人には、無料で木を一本プレゼントしているんです。木を植える人って少ないんで、木はやっぱ一本でも植えてもらいたい。うちは植木屋から始まるとるけど、それが基本です」。

職人としての原点と、経営者としての展望。うまくその2つを融合させながら創る外構は、きっとワクワクするものになるはずだと思えた。

起業するって決めたんですよね」。そう言つて今は笑い話のように話すけれど、誰にも言わずに決める度胸にはただただ驚くばかりだ。「だって反対されるやん? ワクワクしかないのに、反対されたら嫌じゃないですか」。確かに、と言つてしまう不思議な説得力はどこから来るのだろうか。苦労も苦労と思わないバイタリテイがみぎぎっているようだ。

### 職人としての技術が礎に

スーツ姿の幹法さんは経営者としての顔を見せているが、軸はあくまで職人のままだという。「造園の技術は、師匠からものすごい学ばせてもらったんですよ。もうそれはこの辺りでは一番の技術やっただんじやないですかね。当時は純和風庭園ばかりやったけん、技術は得ましたけど、自分やったら違う

庭にするのに、というのがずっとあつたんです。修行時代は鯉が泳ぐような観賞用の庭が多かつたが、「佐野恵樹園」では庭の使い方からデザイン、構造の提案をして、オリジナリテイに溢れ今の暮らしに合った外構を作る。例えば犬を飼っている家にはドッグランを作るとか、家主がアウトドア派なら広いテラスを作るとか。

幹法さんは会社を営みながら



「俺、明日から自分で会社すつたい!」  
ワクワクを力に変え、前進し続ける

### Profile 佐野 幹法さん

高校卒業後、造園職人に弟子入りして技術を習得、平成21年からは[佐野恵樹園]の代表取締役社長。従来の鑑賞用庭園のスタイルに疑問をもち、自然味と個性に溢れる外構・庭園づくりを提案している。プライベートでは4人の子どもがいる父親でもある。



### わたしの情熱の源泉

#### [庭造り]

経営者としての仕事が多いので、気分が疲れたり運動不足になったときは、「行こうぜ!」と部下を誘って木を植えたりします。そうやって汗をかくと気分転換できますからね。

### これからもワクワクを求めて

幹法さんの突然のダンプロック購入で始まった「佐野恵樹園」は、今では営業マンや設計士、エクステリアショップ2店舗を抱える大所帯となった。目に見えて仕事の幅が広がり、顧客とも良い関係が築けて、「会社全体のワクワクが止まらなかつた」という。

「従業員たちにも、お客さんとの普段のやり取りは任せていて、業績を伸ばしていこうという時はワクワクして。やっぱり俺が楽しいとき